

ニューズレター 2022年度 第2号

日本音楽表現学会 2022年11月30日発行

目 次

【巻頭言】研究の間 ^{あわい} について考える	杉江 淑子	2
【随想】聴くことによる楽曲分析	寺内 大輔	3
【海外便り】ベルン大学での国際会議「2 nd Global Piano Roll Meeting」参加報告	鷺野 彰子	4
【演奏会を終えて】R. シューマンのヴァイオリン・ソナタ全3曲リサイタルを終えて	高旗 健次	4
新入会員紹介		5
後援コンサート等情報		5
会員による新刊案内		7
会員による研究会案内		7
第21回（平安）大会発表募集		8
『音楽表現学』の論文・原稿はVol.21より世界に向けて発信されます		8
事務局からの重要なお知らせとお願い		9
日本音楽表現学会第21回（平安）大会のご案内		12
編集後記		12
2022年度役員・委員等一覧		12

日本音楽表現学会



所在地：〒616-8025 京都市右京区花園土堂町1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費：5,000円

振込先：A) 郵便局振込用紙利用 01370 = 6 = 78225 日本音楽表現学会

B) ゆうちょ銀行へ振込^{いちさんきゆう} 一三九(139)店(当座) 0078225 日本音楽表現学会

研究の間^{あわい}について考える

杉江 淑子（事務局長 / 音楽教育・音楽社会学）

最近、ものごとの「間^{あわい}」が気にかかる。昔の読みだと「あはひ」だろうか。この世とあの世をつなぐあわい、善と悪のあわい、正と邪のあわい、正と誤のあわい、AとBのあわい…。

研究の第一歩である「考える」という操作は、大なり小なり、ものごとを分類・整理するところから出発する場合が多い。分類・カテゴリー化のためには、モノ・コトの属性や特性が拠り所となる。資料探索、観察、調査、実験等々はその拠り所を得るための研究手法である。研究者は、これらの手法により得られた材料（データ）を分析し、結果を読み解き、考え抜いた言葉で学術論文に仕上げていく。しかし、言葉を考え抜き、一本の論文を仕上げていく過程は、ものごとの「あわい」に存在する曖昧な、説明できない何かを切り捨てていく作業のようにも思える。研究に求められる客観性、反証可能性は重視しなければならないが、音楽や教育を研究対象にしていると、研究により分類・分析・抽出されたモノ・コトとそれ以外のものごととの「あわい」に存在しているであろう何ものが気にかかってくる。

しかし気にかかってもどこかで観念し、切り捨てたものへの未練(!)を「エイ！ヤァーッ」とばかりに断ち切って進めないと、論文としての完成には至らない。それゆえにか、完成させた途端に、論じたモノ・コトの「あわい」に、説明できないが、しかし重要な何かを取りこぼしているのではないかと不安が宿る。そこで、それらを「今後の課題」などとして論文の末尾に記したりするのであるが、振り返ると、こうして「今後の課題」として積み残してきたことのなんと多いことか。

かつて内田義彦（1913-1989）は、「自然科学者と芸術家の違い」として、対象を上手に切って細部を確かめることからくる自然科学者の正確さと、ものごとを丸ごと捉えて全人間的にぶつかることからくる芸術家の確かさを、それぞれ優れたものとして捉えた。そして、社会科学を専門とする内田自身は、「自然科学的な正確さを半分ねらいながら、そういう正確さはなし、詩人のようにトータルにもものをつかまえる手ごたえの確かさがあるかという、それも頼りない」、すなわち社会科学にはその両方が必要であり、二つをどう両立させていったらよいかを

考え続けたことが、自分の学問の内容なり方法なりの一つの特色となったと述べている（内田 2000）。

もっとも自然科学においても、例えば生物学の領域で植物系の人と動物系の人は発想が違い、植物系の人は個体概念が弱く、つながっている感じがあるという説もある。その真偽はともかく、個体概念が弱い文化では、実体としての個体が先あって、それが一定の属性を持つという考え方は生まれにくい。「湯」を、欧米人のように「熱い水」とか「温かい水」とは言わない日本人の日常感覚からは、「実体」と「属性」は別ものだという発想を持ちにくいとも言う（森・竹内 2022）。モノ・コトの「属性」や「特性」を抽出し、分類・整理・分析していく過程で感じる「説明できない何かを切り捨てたり、とても重要なものを取りこぼしたりしているのではないか」という不安は、もしかすると、「実体」と「属性」をすっきり区別しきれない私自身の日常感覚に起因しているのかもしれない。しかし、見方を変えれば、あるいは開き直れば、この「すっきりしない感覚」は、芸術や教育を研究対象とする者にとっては、大事にすべき感覚ではないだろうかとも思う。内田が、社会科学において、自然科学的正確さと、ものごとをまるごと見る芸術の確かさの両方を追い求め、考え続けたように、私も研究過程における「すっきりしない感覚」について考え続けたい。「今後の課題」は積もるばかりである。

ところで内田自身は、「考える」という操作は書きことばではなく話しことばで行われ、「考える」ことの多くは、専門領域の異なる人との対話から生まれてきたと述べている。音楽という共通項を有しながらも、多様な異業種の会員が集う本学会は、まさにこうした対話の場であると思う。

さて、今年7月から二度目の事務局長となりました。何かと至りませんが、どうぞよろしく願いいたします。

【参考文献】

- 内田義彦（2000）『ことばと音、そして身体』内田義彦セレクション2，藤原書店。
森敦・竹内啓（2022）『数学の世界』中公文庫（初版・中公新書：1973）。

聴くことによる楽曲分析

寺内 大輔（作曲・即興演奏）

大学院生だった頃、作品についてのレポートを提出するという課題が課せられた。私は、G. リゲティ (Ligeti György) の《ラミフィケーション (Ramifications)》と、《フルートとオーボエのための二重協奏曲 (Double Concerto for Flute, Oboe and Orchestra)》を取り上げることにした。

担当教員は、おそらく楽譜を根拠とした楽曲分析のようなものをイメージしていたのだろう。だが、私は、楽譜ではなく、私自身の聴取体験をもとにした分析にしたいと考えた。具体的には、私の聴取体験—すなわち「私がどう聴いたか」—を音楽の進行に沿って記述し、それを楽譜に照らしながら楽曲の構造との関係を検討するという形を採った。こうした作業は、自分自身の感性とまっすぐに向き合うことでもある。そして、それを言語化することは、楽曲に新たな魅力を発見するきっかけにもなった。執筆はなかなか楽しく「良い勉強になっている」という実感もあった。

しかしながら、聴取は、個人的・主観的な体験である。執筆にあたってはできるだけ客観的な記述になるようつとめたが、ある部分では分析的に、ある部分では批評的に、またある部分では感想のようにもなった。分析と批評と感想のあいだを漂う自身の態度と、出来上がったレポートについて、少しスッキリしない気持ちもあった。

あの時から、私は、聴取体験に焦点を当てた楽曲分析に関心を持つようになった。このような方法に則った研究は決して多くはないものの、試みられてはいる。例えば、2008年の本学会大会における阿部亮太郎の発表「松村禎三《弦楽器のための前奏曲》に於ける聴覚の関心の移動について」は、そのひとつである。

先日出会った論文、丸山千鶴 (2015) の「全面的セリー主義音楽におけるセリー組織外の要素の知覚への影響について：シュトックハウゼンの《Kreuzspiel》とブーレーズの《Structures Ia》を中心に」では、著者の聴取体験を起点とした論が展開されている章が含まれている。これは博士論文であるため、「審査結果の要旨」が公開されているのだが、そこには「聴覚分析の具体的な方法と過程の説明が不十分であり、そのために、この分析の間主観的な実証性（つまり、単に主観的なものでないこと）

が見えにくくなっている」という批判が含まれている。他方、「極めて独自性の高い方法論であって、その結果、これまでの研究では明らかにされ得なかった多くの点の解明に成功している」という賛辞も述べられている（片桐功ほか4名 2015）。実際、同論文が対象としている2作品は、作曲上の様々な仕掛けと聴取による認知とが結びつきづらく、それゆえ、聴くことによる楽曲分析が必然性をもった研究方法として位置づいている。

聴取体験は、その人のものである。主観的であることは避けられないのかもしれない。それでもなお私がこの方法に惹かれるのは、それが音楽を理解するための極めて重要な方法のひとつだと考えているからである。

【参考文献】

- 阿部亮太郎 (2008) 「松村禎三《弦楽器のための前奏曲》に於ける聴覚の関心の移動について」『音楽表現学』Vol.6、p.94
- 片桐功ほか4名 (2015) 「審査結果の要旨」『2015 (平成27) 年度エリザベト音楽大学大学院の博士学位論文、内容の要旨および審査結果の要旨について』、http://www.eum.ac.jp/graduate_school/doctoral_course/phd_thesis/20151105.pdf (2022年10月31日アクセス)
- 丸山千鶴 (2015) 「全面的セリー主義音楽におけるセリー組織外の要素の知覚への影響について：シュトックハウゼンの《Kreuzspiel》とブーレーズの《Structures Ia》を中心に」エリザベト音楽大学博士論文、http://www.eum.ac.jp/graduate_school/doctoral_course/phd_thesis/20151105otsu5.pdf (2022年10月31日アクセス)

【海外便り】

ベルン大学での国際会議「2nd Global Piano Roll Meeting」参加報告

鷲野 彰子 (ピアノ/福岡県立大学)

今年6月、ベルンにおける国際会議出席のため、久々に海外に出かける機会を得た。この国際会議「プレリュード」は、世界各国から自動演奏ピアノに関する様々な専門家（音楽学者、楽器修復家、コレクター等）が集まり、4日間にわたって開催された。エジソンらの録音と同時期に開発の進んだ自動演奏ピアノは、著名なピアニストの演奏をパンチ穴で記録したロール紙を用いて演奏再現する機構をもつ。20世紀初期の演奏研究に欠かせない資料であり、その研究に力を入れるスタンフォード大学やベルン大学が中心となり、この会議が開催された。これら機関の関係者のほか、オーストラリアやイギリス、ドイツなどから20代の若手から80代の大御所までを含む約40名の参加者が発表を行った。日本からは東京大学のH.ゴチェフスキ先生も参加された。朝9時から夜9時過ぎまで、毎日まさに缶詰状態で発表や演奏を聴き、そして自分も発表する、というハードスケジュールだったが、資料収集自体が困難なこのエリアのあらゆる最先端の情報が共有される場に身を置ける、申し分なく貴重な機会となった。



【写真】2nd Global Piano Roll Meeting
発表会場風景

【演奏会を終えて】

R. シューマンのヴァイオリン・ソナタ全3曲リサイタルを終えて

高旗 健次 (ヴァイオリン/広島大学)

9/11に、R. シューマンのヴァイオリン・ソナタ全3曲を演奏した。彼のヴァイオリン・ソナタは奏者にとって、音楽的な表現を「まず理解する」のに苦労する。というものこの3曲は、彼自身が30代前半より46歳で亡くなるまで患っていた、精神病の最中の晩年に作曲された事が根底にあるからだろう。楽曲の構成面においては分析できるものの「感情のうねりや苦悩」といった、当時の彼の心「情」に寄り添いながらの演奏は、相当きつい精神性を伴うことを覚悟で演奏する必要がある。しかしそうした彼の精神の錯乱や絶望の中に、長調でのハーモニーが登場する瞬間は、他の作曲家にはみられない「東の間の希望や喜び」といった彼独自の心「境」を感じる



ことができ、演奏上筆舌に尽くしがたい幸福感を得ることができた。詩情的な要素を伴う第1番、ヴァイオリンの魅力である高音域がほとんど使用されていないため、高度な表現力を要する第2番、没後100年後に出版され、今日でも演奏される頻度の少ない第3番全てを演奏できたことで、シューマンの人生観や音楽に対する姿勢にも、多少近付けた気がする。

新入会員紹介

個人情報につき削除しています。

後援コンサート等情報

小西 潤子さん

ワールド三線フェスティバル 2022

日 時：2022年10月30日～11月30日

会 場：沖縄県内各地

詳 細：<https://worldsanshinfestival.com/>

問合せ：沖縄県三線製作事業協同組合内ワールド
三線フェスティバル実行委員会事務局

小川 有紀さん

セザール・フランクとその時代

日 時：2022年11月4日(金)

12:30～19:00～の二回公演

会 場：神奈川県民ホール小ホール

料 金：昼の部：2,000円、夜の部：4,000円

共通券：5,500円

出演者：小川有紀、川上徹

曲 目：オルガン・ソロ曲を中心とし、ソナタの伴奏部
をオルガンに編曲したアンサンブル。昼(オル
ガン演奏と口頭の解説付き、所要時間約1時間)、
夜(演奏のみ、含むアンサンブル)の二回公演

問合せ：03-3501-5638(マネジメント：ミリオンコンサ
ート協会) 045-662-5901(神奈川県民ホール)

鶴澤 友球さん

第21回どんぐり浄瑠璃ライブ&出稽古

日 時：2022年11月5日(土)

ライブ…13:30 開演

体験お稽古…10:00-11:45・15:30-18:00

会 場：レンタルスペースどんぐり

(〒679-1336 兵庫県多可郡多可町加美区)

料 金：ライブ…予約2,500円 当日2,800円

1/2参加1,500円

お稽古体験…30分2,000円

出演者：鶴澤友球(トーク・弾き語り)

曲 目：『菅原伝授手習鑑』四段目〈寺子屋の段〉

問合せ：鶴澤友球会事務局

Tel & Fax:0799-62-5805

e-mail:tsuruzawa-tomoju-gidayuu@au.com

レンタルスペースどんぐり

Tel:0795-36-0175

鶴澤 友球さん

第7回 浄瑠璃研鑽会

日時：2022年11月6日(日)10:00 開会
会場：淡路市立津名公民館 (しづのおだまき館)
3階 大会議室
(〒656-2131 淡路市志筑 3117-1)

料金：聴講料500円(資料代含む)
出演者：鶴澤友球会、鶴澤友球会会員(アマチュア太夫・三味線)

曲目：鶴澤友球会会員の公開稽古
外題/義太夫節三味線メリヤス、『艷容女舞衣』
<酒屋の段>、『伽羅先代萩』<政岡忠義の段>
他

問合せ：鶴澤友球会事務局
Tel & Fax:0799-62-5805
e-mail:tsuruzawa-tomoju-gidayuu@au.com
Facebook・Messenger・Instagram・Twitter
「鶴澤友球」あてメッセージ

榊原 明子さん

大地の響き

日時：2022年11月27日(日)
13:00 / 15:30 開演 ※2公演入替制
会場：奈良国立博物館 仏教美術資料研究センター
関野ホール
料金：大人 前売り3,000円 当日3,500円、大学生
以下1,500円
11/11(金)～11/26(金)でチケットぴあにて販売(P
コード:231-302)

出演者：矢野司空(尺八)、石川憲弘(箏、復元琴)、石
川利光(尺八)、山崎晃男(ガムラン音楽)、
由利龍示、(復元琴)、小池陽人・須磨琴保存
会(一絃琴演奏)、榊原明子(作曲、ピアノ)

曲目：奈良県出土の2～3世紀頃の琴を復元。復元琴、
一弦琴、箏と古代から現代までの琴の歴史を
たどるほか、尺八、ピアノ、ガムラン音楽など、
音楽の垣根を超えた幅広い内容

問合せ：ピアノで奈良を奏でる会
TEL:090-2744-8504
E-mail:pianodenara@gmail.com

河原 千尋さん

音楽表現のバトル V

日時：2022年12月16日(金)19:00 開演
会場：所沢市民文化センター「ミュージズ」キューブホ
ール

料金：3,000円
出演者：河原千尋(ピアノ)
曲目：J.S. バッハ/パルティータ、徳山美奈子/序の
舞(能楽師 勝海 登共演)他
問合せ：info@kawaharapf.live

鶴澤 友球さん

第3回 百年長屋の義太夫節

～鶴澤友球 弾き語りライブ～

日時：2022年12月17日(土)13:00 開会
会場：百年長屋(〒537-0025 大阪市東成区中道
3-2-28)

料金：予約2,500円 当日3,000円
出演者：鶴澤友球(トーク・弾き語り)
曲目：『仮名手本忠臣蔵』三段目<殿中刃傷の段><裏
門の段> ※終演後、希望者への体験お稽古を
実施。一枠30分2,000円。17:00まで。

問合せ：鶴澤友球会事務局
Tel & Fax:0799-62-5805
e-mail:tsuruzawa-tomoju-gidayuu@au.com
Facebook・Messenger・Instagram・Twitter
「鶴澤友球」あてメッセージ

豊田 典子さん

歌の会★青い星が贈る世界の名歌

100曲リクエストコンサート Vol.5

日時：2023年2月5日(日)14:00 開演
会場：国際楽器社ホール
料金：前売券2,500円 当日券3,000円
出演者：豊田典子
曲目：貴志康一/赤いかんざし、團伊玖磨/紫陽花、
マスカーニ/アヴェ・マリア他
問合せ：(株)国際楽器社 06-6252-0222

齋藤 奈都美さん

齋藤奈都美ピアノリサイタル

知られざるシャミナードの世界 Vol. 3

日時：2023年3月19日(日) 15:00 開演

会場：遠藤剛熙美術館（京都市下京区高辻猪熊町
349）

料金：前売2500円、当日3000円

出演者：齋藤奈都美

曲目：リカルド・カストロ〈アルバムの一葉〉作品
15-1 / シャルル＝マリー・ヴィドール《ピアノ
三重奏 曲 変ロ長調》作品19 / セシル・
シャミナード《ピアノ三重奏曲 第1番ト短調》
作品11

問合せ：知られざるシャミナードの世界実行委員会
chaminade.concert3@gmail.com

高旗 健次さん

トリオクライネフロイデ室内楽の午後 Vol.3

日時：2023年3月31日(金)14:00 開演

会場：豊中市立文化芸術センター小ホール

料金：(前売り券・当日券とも) 一般3,000円、学生
1,000円

出演者：山畑誠、高旗健次、後藤敏子

曲目：L.v. ベートーヴェン (F. リース編)：交響曲
第2番ニ長調作品36 (ピアノ三重奏曲版)、
A. ピアソラ作曲 (R. クレメント編)：「ル・グ
ラン・タンゴ」、F. メンデルスゾーン作曲：ピ
アノ三重奏曲第1番ニ短調作品49

問合せ：トリオクライネフロイデ

Tel: 072-741-6882 (ナガオカ)

E-Mail:vcbinko@yahoo.co.jp

会員による新刊案内

田中 昌司さん・伊藤 康宏さん 共著

『音楽する脳と身体』

【出版社】 コロナ社

【判型・頁数】 A5判、158頁

【発行年月日】 2022年10月17日

【定価】 2,530円(税込)

【ISBN】 978-4-339-07826-8

【内容案内ページ】

<https://www.coronasha.co.jp/np/isbn/9784339078268/>

【備考】第3章は2019年に開催された日本音楽表現学
会会第17回(かきつばた)大会での基調講演と対談を
もとにしている。

田中 昌司さん

『音大生・音楽家のための脳科学入門講義』

【出版社】 コロナ社

【判型・頁数】 A5判、126頁

【発行年月日】 2021年4月28日

【定価】 1,980円(税込)

【ISBN】 978-4-339-07825-1

【内容案内ページ】

<https://www.coronasha.co.jp/np/isbn/9784339078251/>

会員による研究会案内

深井 尚子さん

「ベートーヴェン学術実践研究会」第1回研究会

日時：2023年2月11日(土・祝) 14:30～スカイプによるオンライン開催

14:45～15:30 講演：深井尚子(ピアニスト・元北海道教育大学准教授)

「クラシック音楽におけるベートーヴェンの位置について」

15:40～17:00 意見交換：

1. 研究分野と演奏分野の融合の意義について(発議：会長：深井尚子)
2. 演奏者からみた学術研究(論文)について(発議：副会長：二宮英美歌)
3. 学術研究からみた演奏解釈の実現について(発議：副会長：大久保光哉)

* 2022年10月に創設された研究会です。BAPSとは、Beethoven Akademisch-Praktische Studiengruppeの頭文字
です。視聴希望の方は、以下のHPより会員登録(無料)をしていただきますと、研究会のURLをお送りいたします。

<https://b-aps.com>

第 21 回 (平安) 大会発表募集

第 21 回大会は、2023 年 6 月 17 日 (土) - 18 日 (日) に京都女子大学において開催の予定です。昨年度に引き続き、対面による大会の実現を目指しています。ただし、新型コロナウイルス感染症の第 8 波～第 9 波の到来によっては、オンライン開催になる可能性もありますことをお含みください。多数のお申し込みをお待ちしています。

~~~~~ 記 ~~~~~

**発表概要：**発表形態ア、イ、ウとも研究発表 30 分と質疑 10 分、計 40 分

**発表申込：**下記様式にしたがって、発表タイトルと発表形態および 200 ～ 400 字の発表要旨等をご記入の上、メールでお申し込みください。複数会員による発表の場合には必ず筆頭発表者が申し込んでください。なお、筆頭発表は学会からの委嘱を除き、一人 1 件です。

**発表申込資格：**申込み時点で 2022 年度までの会費を完納している会員

**締 切：**2023 年 2 月 15 日 (水)

**申 込 先：**学会事務局

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp 宛。

### 【申込書書式】

日本音楽表現学会第 21 回大会に発表を申し込みます。

2022 年度までの年会費は納入済です。  
(冒頭の□に納入済の「✓」を記入してください。)

1. 氏名 \_\_\_\_\_

2. 連絡先〒 \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_

3. E-mail \_\_\_\_\_

4. 発表題目 \_\_\_\_\_

5. 発表要旨 (200 ～ 400 字)

6. 発表形態：(該当する記号を記載)

ア) 研究発表 (共同発表も含む)

イ) ワークショップ

ウ) デモンストレーション

7. 分科会会場設置使用機器 (使用する機器の記号を記載)

a) ピアノ b) プロジェクタとスクリーン

\* CD や DVD 等デジタル音源は予めご自身のコンピュータから出力できるよう準備してください。

会場の CD プレーヤーや DVD プレーヤー等の音響機器は、対応できない可能性があります。

## 『音楽表現学』の論文・原稿は Vol.21 より世界に向けて発信されます

2003 年に設立された日本音楽表現学会は 2023 年には設立後 20 年を経ることとなります。この間に会員数も年ごとに増え、研究分野の拡大と深化を見ることができるようになりました。

そこで、『音楽表現学』Vol.21 より会員の研究を海外に向けて発信するよう計画しています。「音楽行動」は状況や環境、社会からの要請はどのようであろうとも、自らの音楽的欲求と発信欲求に由来しています。私たちは、それらが音響的に結実したものを「音楽表現」と呼んでいます。「音楽表現」は音楽的な行為の根源であり、具体的な現れでもあります。

しかし、世界を広く眺めてみると、音楽表現全般に焦点をあて、「様々な視点と手法で音楽に迫ろうとする研究団体」は実は見つからないのです。我々にとっても、音楽表現の追究がゴールに到達できるまでには時間を要するかもしれません。しかし、たとえ途上であろうとも、このユニークな学会の研究の蓄積を世界に向けて発信することは音楽研究、ひいては音楽と音楽文化に貢献でき

ることだと考えます。

最近では文科系の学会でも「英語で発表しよう」という動向がみられます。しかし、論文全体を英語で創り、発表すること以前に、この学会ではまず会員個々人の感性を重視して、それに基づく研究を推進したい、まず、自分自身の言葉で追求し、反芻して練り上げた研究を蓄積したい。その上で、成果物を海を越えて、空を渡って世界に向けて届けたい、と考えました。

これまでも本学会のホームページでは『音楽表現学』掲載論文・原稿の標題は欧文で公表されています。この段階から 2023 年には一歩進めます。標題に興味を持った海外の研究者が「英文要旨」に接して概要を知る、さらに知りたければアクセスできて議論が深まるという学会に成長しようではありませんか。

『音楽表現学』Vol.21 に投稿をお考えの会員は、このことを念頭に、準備をお進めください。計画の詳細は NL2022-No.3 でお知らせします。



## 事務局からの重要なお知らせとお願い

### 1. 『2022 年度版会員名簿』発行に関わるお願い

日本音楽表現学会では、学会員の相互交流による研究の発展を目的に、2年毎に会員名簿を更新し、会員の皆様にお送りしています。2022年度は名簿更新年度となりますので、年度内の発行を予定しています。会員の皆様方には、12月～1月にかけて、学会ホームページおよびメールにてご協力のお願いを配信いたします。速やかなご返信をよろしくお願い申し上げます。

### 2. 年会費の納入について

#### (1) 納入期限：その年度の4月1日から大会開催1週間前までをお願いします。

学会は皆様方の年会費で運営されています。滞納されますと、機関誌の発行、大会の開催など、さまざまな活動に支障をきたします。例年年度当初(4月)に速やかな納入をお願いしています。今年度の会費をまだお振り込みでない方はお急ぎください。なお、3年滞納された方は、総会での審議事項、年会費滞納による除籍対象者になります。無意識滞納にご注意いただきますと同時に、対策の一助として、納入後はただちに、「振替払込請求書兼受領証」(ATMご利用の場合は「ご利用明細票」)に、納入年度をメモの上、保存されることをお勧めいたします。

#### (2) 振込方法：

年会費納入方法の合理化のために、「ゆうちょダイレクト等ネットバンキング」に入金できる方法も導入しました。ネットやコンビニ等を利用して、銀行や郵便局に行かなくても納入が可能です。もちろん従来の「払込取扱票」でも構いません。年度当初の速やかな納入をお願いします。

年会費納入方法：

A) 郵便局からの振込(払込取扱票を利用)

(記号一番号) 01370 =6= 78225 加入者名：日本音楽表現学会

B) 他行等からの振込(店名-口座番号) いちさんきゅう

店名 一三九(139)店 預金種目：当座 口座番号：0078225

#### (3) 領収書・請求書の発行：必要な方は事務局へお問い合わせ下さい。

領収書は原則として発行いたしません。「振替払込請求書兼受領証」(ATMご利用の場合は「ご利用明細票」)を領収書として保管ください。大学研究費での引き落とし等、請求書・領収書の必要な方は事務局へお問い合わせください。財務局へ取次ぎ、発行手続きをいたします。

#### (4) 年会費減免措置について：自然災害等の被災による減免措置の制度

学会では、地震や洪水等、自然災害の被災によって年会費納入が困難な会員の年会費を減免する制度があります。必要な方は、HPから書式「年会費減免願」書式をダウンロードし、申請ください。理事会に諮り、減免手続きをいたします。

### 3. 住所等、会員情報の変更：HPフォームにて速やかにお知らせをお願いします。

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>

学会からの送付物は事務局本部で理事とスタッフが手作業で、お届けいただいた連絡先にお送りしています。しかしながら、転居先不明等で返却される封筒が少なからず存在します。そのたびに所属先や、時には入会時の「推薦者」に問い合わせ再送しています。また、経費節減のために学会からの郵送物は郵送ではなく、「デリバリーサービス」を使っています。郵便局宛の住所変更届は民間配送業者には届きません。学会からの送付物が必ずお手元に届くように、また返送による送付作業の手間と経費を削減するために、みなさまのご協力を切にお願い申し上げます。

郵送物の住所変更届を郵便局に提出されても民間配送業者には届きません。

## 4. 学会員の研究サポート制度

### (1) 機関誌『音楽表現学』への投稿

原稿の投稿には、会員資格と当該年度までの会費を完納していることが必要条件です。手続きには2～3週間かかります。その点ご確認ください。

『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。

投稿〆切は毎月5月15日24:00です。

### (2) 大会での発表

本学会ならではの生の音楽表現を含めた研究発表の機会をご利用ください。〆切期日は厳守ですので各自で明記してください。

大会発表応募〆切は毎回2月15日24:00です。

## 5. 会員への情報公開

### (1) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。

研究ノート、随想などを図表等を含めて刷り上がり1頁以内でお送りください。

### (2) コンサート等の後援・協賛

学会HPより[コンサート等後援/協賛申請フォーム]をダウンロードして、必要事項を記載し、メール添付ファイルにて学会事務局に申請してください(各項目は1行39字以内を原則とします)。確認後、事務局より「後援受理書」をお送りしますので、チラシやプログラムに学会名を掲載ください。HP及びニュースレターにも案内を掲載します。出演者氏名の掲載は会員のみとなります。事務局からの返信が1週間以内に届かない場合は、事務局にご連絡ください。

### (3) 新刊案内・CD/DVD リリース

ニュースレターとHPに掲載します。

- ・新刊案内の項目は著者名(会員)、書名、ISBN、出版社、発行年月日、判型と頁数、税込価格(税抜価格)、購入方法など
- ・CD、DVDの項目は制作・編集者名(会員)、タイトル、DVD-No.、所要時間、発売・販売、発行年月日、税込価格(本体価格)、購入方法など

### (4) その他：隣接領域の研究会等情報などもお寄せください。

投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

## 6. 学会発刊の書籍の販売について

### (1) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法と価格

メール等で事務局までお申し込みください。  
代金は、到着後郵便振替でお願いします。大学図書館  
などへの納入については事務局にお問い合わせください。

| Vol. | 会員価格（1部）  | 一般価格（1部）  |
|------|-----------|-----------|
| 1～3  | 2,500円+送料 | 3,000円+送料 |
| 4～14 | 3,000円+送料 | 3,500円+送料 |
| 15以降 | 2,500円+送料 | 3,000円+送料 |

### (2) 『音楽表現学のフィールド2』好評発売中。

メール等で事務局までお申し込みください。  
会員価格にて購入いただけます。代金は、到着後書  
籍に同封の郵便振替でお願いします。  
会員価格：3,000円（正価×0.9－α、税込・送料込み）  
一般価格：3,456円（税抜3,200円）

[購入申込書]

|                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 『音楽表現学のフィールド2』の購入を申し込みます。<br>氏名： _____<br>部数： _____<br>送付先： _____<br>連絡用E-mail： _____ |
|---------------------------------------------------------------------------------------|

## 7. 入会手続きについて

本会機関誌への投稿や大会での発表の申込みは本会会員であることが条件です。手続きには2～3週間かかります。

- ①入会申込書はHPからダウンロードし、メールで事務局にお届け下さい。
- ②事務局から必要な手続きについて連絡が届きます。その連絡に沿って手続きをお進めください。
- ③手続きが完了したら、理事会の承認に進みます。
  - ・学会からの連絡（印刷物お届けなど）は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。
  - ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

## 8. 退会手続きについて

退会には以下の3点が必要です。「退会願」を提出しないで、年会費を先延ばしにしていると「会則第8条」によつて除名処分になります。仕事や私的な理由で残念ながら学会員を「これ以上続けることができない」と判断された場合には、必要な手続きを行ってください。

- ①「退会届」をHPからダウンロードして必要項目をご記入の上、メールで事務局にご提出下さい。
- ②大会の必要条件「その年度までの年会費を完納」を満たしているかどうか、ご確認ください。
- ③手続きが完了したら、理事会の承認に進みます。

学会事務局 E-mail： [music-expression@music-expression.sakura.ne.jp](mailto:music-expression@music-expression.sakura.ne.jp)

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

# 日本音楽表現学会第21回（平安）大会のご案内

会 場：京都女子大学音楽棟・幼児教育棟（京都市東山区今熊野北日吉町 35）

会 期：2023年6月17日（土）- 18日（日）

実行委員会：荒川恵子、牛渡克之、大谷正和、岡ひろみ、  
岡林典子、奥忍、ガハプカ奈美、木下千代、  
古庵晶子、近藤晶子、佐野仁美、杉江淑子、  
田中純、土居知子、豊田典子、中村公俊、  
似内裕美子、福本康之、松井萌、三島郁、  
安田香、吉田直子

## 会場への主なアクセス：

京都駅八条口（新幹線側）からプリンセスライン  
（赤いバス）に乗車 京都女子大学直行（230円）



愛称の主旨：古来音楽は平和を願って奏されてきた。

「平安京」の名には「平らかで安らかな都」であることを願う気持ちが込められている。久々に京都で開催される今大会。戦争で、コロナで、異常気象で、皆が苦しい今この時こそ、私たちは共に平和と音楽表現について考えてみたい。

## 編集後記

2022年度ニューズレター第2号をお届けいたします。「巻頭言」「随想」「演奏会を終えて」「海外だより」を拝読して、改めて本学会の多様性と音楽の奥深さを痛感しました。今後もそれぞれの分野で活躍の皆様にとっての交流の場として、情報提供できるよう努めてまいりたいと思います。

次回大会は、2023年6月17日（土）、18日（日）京都女子大学にて、「基調講演とレクチャーコンサート」のテーマは「楽に寄す」に決まりました。古都の歴史に思いを馳せながら、音楽の未来について大いに語り合いたいと思います。

この度大竹さんとともにニューズレター編集に携わることになりました。微力ではございますが、今後ともよろしくお願ひします。

（吉田 秀文）

## 2022年度役員・委員等一覧

|                    |                |                   |
|--------------------|----------------|-------------------|
| 会 長：小西 潤子          | 編集委員会：         | デザイン室長：奥 忍        |
| 副 会 長：藤原 嘉文 石原 慎司  | 委員長 渡辺 修身      |                   |
| 事務局 長：杉江 淑子        | 副委員長 小川 容子     | 参事 (HP/ 機器)：近藤 晶子 |
| 財務局 長：寺内 大輔        | 委員 稲木 真司 田中 宏明 | (D室)：中村 公俊        |
| 理 事：宮本賢二郎 (事務局担当)  | 田中 昌司 豊田 典子    | (J-Stage)：長山 弘    |
| 小川 有紀 (財務局担当)      | 長谷川正規 三島 郁     | (庶務)：似内裕美子        |
| 大竹 紀子 (総務担当)       | 著作権ワーキング：      | (庶務)：松井 萌         |
| 吉田 秀文 (総務担当)       | 代表 福本 康之       |                   |
| 監 事：渡会 純一 橋本 智明    | 委員 近藤 晶子 酒井 勇也 | スタッフ (事務局)：湯浅 香苗  |
| 参 与：中村 隆夫 安田 香     | 高橋 豊 中村 滋延     | (財務局)：藤脇千津子       |
| 会長諮問会議：安藤 政輝 佐々木正利 | 選挙管理委員会：       |                   |
| 後藤 丹               | 委員長 田邊健太郎      |                   |
|                    | 委員 牛渡 克之 松井 萌  |                   |